

子どもの急病時！ こんな時どうするの

冷静に状況を
確認しましょう



子どもが、夜間急に発熱して慌ててしまった。皆さん、こんな経験がないでしょうか？発熱や嘔吐など、よくある症状の観察のポイントや、家庭でできる対処方法を紹介。お子さんの具合が悪くなった時に慌てないように急病時の判断の目安に役立ててください。

知って良かった観察のポイント

◇熱を出した！	◇吐いた！	◇誤飲した！
<p>子どもは、夕方から夜にかけて発熱することが多いです。熱があっても、機嫌よく遊んでいたり、すやすや眠っているようなら、慌てずに様子を見ましょう。</p> <p>様子を見よう</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱が38.5℃程度(生後3カ月までは38℃以下) 様子がいつもとそれほ変わらない 機嫌が良い 顔色が良い <p>急いで受診</p> <ul style="list-style-type: none"> けいれんする 様子がいつもと違っておかしい 繰り返し嘔吐する 機嫌が悪い状態が続く 顔色が悪い状態が続く 	<p>咳とともに嘔吐する、食べ過ぎて嘔吐する、熱が出ると嘔吐しやすいなどは、あまり心配いりません。吐いたものを気管に吸い込まないように子どもの体を横向けにして様子を見ましょう。</p> <p>様子を見よう</p> <ul style="list-style-type: none"> 水分が少しずつとれる 下痢や発熱がない 吐いた後、ケロッとして機嫌が良い <p>急いで受診</p> <ul style="list-style-type: none"> 続けて何回も吐く 意識がぼんやりしている けいれん(ひきつけ)がある 強い腹痛や頭痛がある 便に血がついている 	<p>家庭の中にも子どもが飲み込むと危険なものはたくさんあります。タバコ、医薬品、漂白剤、殺虫剤、灯油、ボタン電池などです。落ち着いて、何を飲み込んだのか周囲にあるものから推測してください。</p> <p>灯油、漂白剤、強い酸やアルカリ製品の場合…吐かせるとかえって危険です。診察を受けましょう。</p> <p>タバコの場合…ニガくて普通は1cmも食べていません。その場に残っているものを確認してください。吐かせてみてタバコの葉が1~2枚程度ならあわてないで大丈夫です。2cm以上食べたようなら、早く診察を受けましょう。</p>

上手な小児科受診のポイント

- ①かかりつけ医をもちましょう
- ②病状を時間の経過とともに話しましょう
- ③心配していることは何でも話しましょう
- ④診察・検査・薬など疑問があれば質問しましょう
- ⑤症状が改善しない、気になる症状が出てきたら再度受診しましょう

「こどもの病気や事故、こんな時どうするの？」をテーマに講演会を無料で開催します

日時：9月8日(火) 13時受付
場所：のいちふれあいセンター
対象：小さなお子さんがある家庭
講師：武田興二先生(野市中央病院小児科医)

緊急夜間相談窓口

高知県救急医療情報センター
医療機関の紹介を行います
☎088-825-1299

こうちこども救急ダイヤル
「子どもの具合が悪くなったけど、受診した方がいいの？」と迷ったときに看護師が相談にお応えします
◎相談日：金曜、土曜、日曜、祝日、年末年始
◎相談時間：午後8時～午前1時
☎088-873-3090
または #8000(携帯・プッシュホン)

高知市平日夜間小児急患センター
◎診療時間：月～金曜日：午後8時～午後11時
土曜日：午後8時～日曜日午前8時
高知市休日夜間急患センター
内科または小児科、日曜午前のみ耳鼻咽喉科
◎診療日：日曜・祝日・年末年始
◎診療時間：午前9時～午前12時
午後1時～午後5時
午後6時～午後10時
所在地：高知市鷹匠町2丁目1番36号
☎088-875-5719

救える命がもっとある！

9月9日は救急の日

救急車は、要請を受けて現場に到着するまでに、平均約7分かかります。この間に、心肺蘇生や止血などを行うことで救命率の向上や、後遺症の低減に非常に有効です。「大切な人を守るため」応急手当の方法を身につけましょう。

問い合わせ
消防本部救急係
☎55-4141

あなたはこんな時どう対処しますか？

子ども、高齢者に多い、餅、ごはん、パン、飴などによる窒息事故を未然に防ぐための異物の除去方法です。

のどに異物が詰まった！



▲のどに物を詰まらせたとき、のどをおさえたり揺きむしるような動作をチョークサインといいます。

傷病者に反応(意識)がある場合

傷病者に『のどが詰まったの？』と尋ね、声が出せず、うなずくようであれば窒息と判断し、ただちに行動しなければなりません。



①腹部突き上げ法



②背部叩打法

- 119番通報するよう誰かに頼むとともに、ただちに以下①②の方法で異物の除去を試みます。
- 咳をすることが可能であれば、咳をできるだけ続けさせます。咳ができれば、異物の除去にもっとも効果的です。

①腹部突き上げ法(ハイムリック法)

- 後ろから抱えるように腕を回し、片手で握りこぶしを作ります。その親指をへそとみぞおちの間に当てます。次に、もう一方の手で握りこぶしを握り、圧迫するように素早く突き上げます。
- 注)妊婦や乳児あるいは傷病者が自力で立ち上がれない場合は、腹部突き上げ法は行ってはいけません。②の背部叩打法のみ行います。

②背部叩打法(写真は立位による背部叩打法)

- 傷病者の横に立ち、手の付け根で肩甲骨の間を力強く何度も連続してたたきます。
- ※背部叩打法には、座位や横向けに寝らす方法もあります。

傷病者に反応(意識)がない場合

反応がない場合、あるいは最初は反応があっても応急手当を行っている途中でぐったりして反応がなくなった場合には、ただちに通常の心肺蘇生法の手順を開始します。



▲心肺蘇生法

- ①助だちに救助を呼び119番通報。
- ②気道確保を行い、次に人工呼吸を2回行う(省略可)
- ③心肺蘇生法を行っている途中で口の中に異物が見えたら取り除く
- ④口の中に異物が見えなくても、異物を探すことはせずに、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を1セットで繰り返す

乳児(約12カ月まで)に対する異物の除去方法



▲乳児に対する背部叩打法

反応がある場合は、背部叩打法のみを実施

- 救助者の片腕の上に乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで乳児の頭を支えながら、頭部が低くなるような姿勢にして突き出します。次にもう一方の手の付け根で、背中の中を異物が取れるか反応がなくなるまで強く叩きます。

反応がない場合や反応がなくなった場合

- 乳児に対する心肺蘇生法の手順を開始します。救助者が一人の場合は、通常のコップを2分間ほど行った後に、119番通報します。

